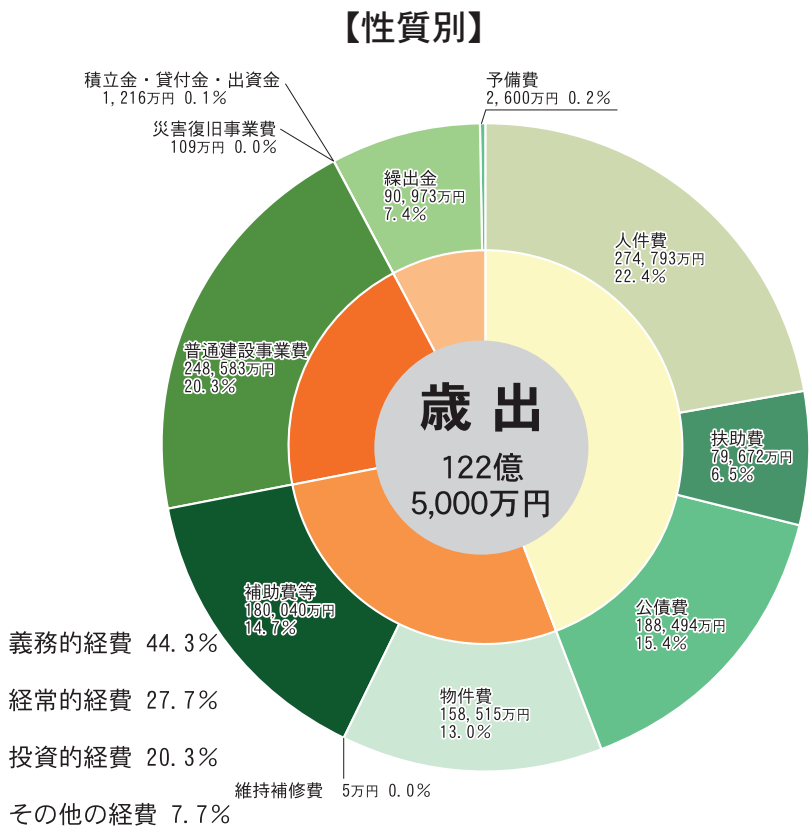
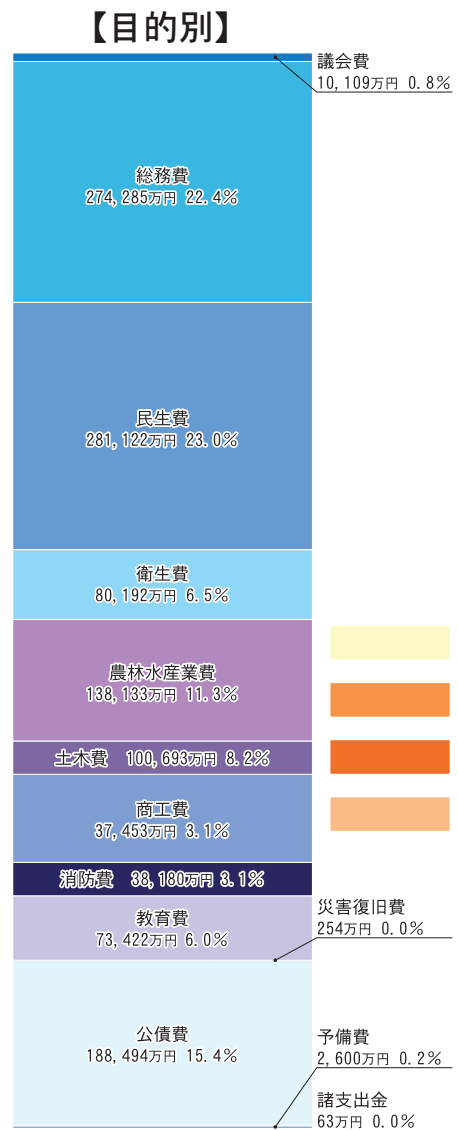


一般会計歳出



平成22年度

本年度のまちづくりの内容を決める、山都町の22年度予算が、3月議会で議決されました。昨年度より7億5千万円の増額。財政の健全化に努めながら、町の活気を生む事業を推進していきます。

一般会計主な事業

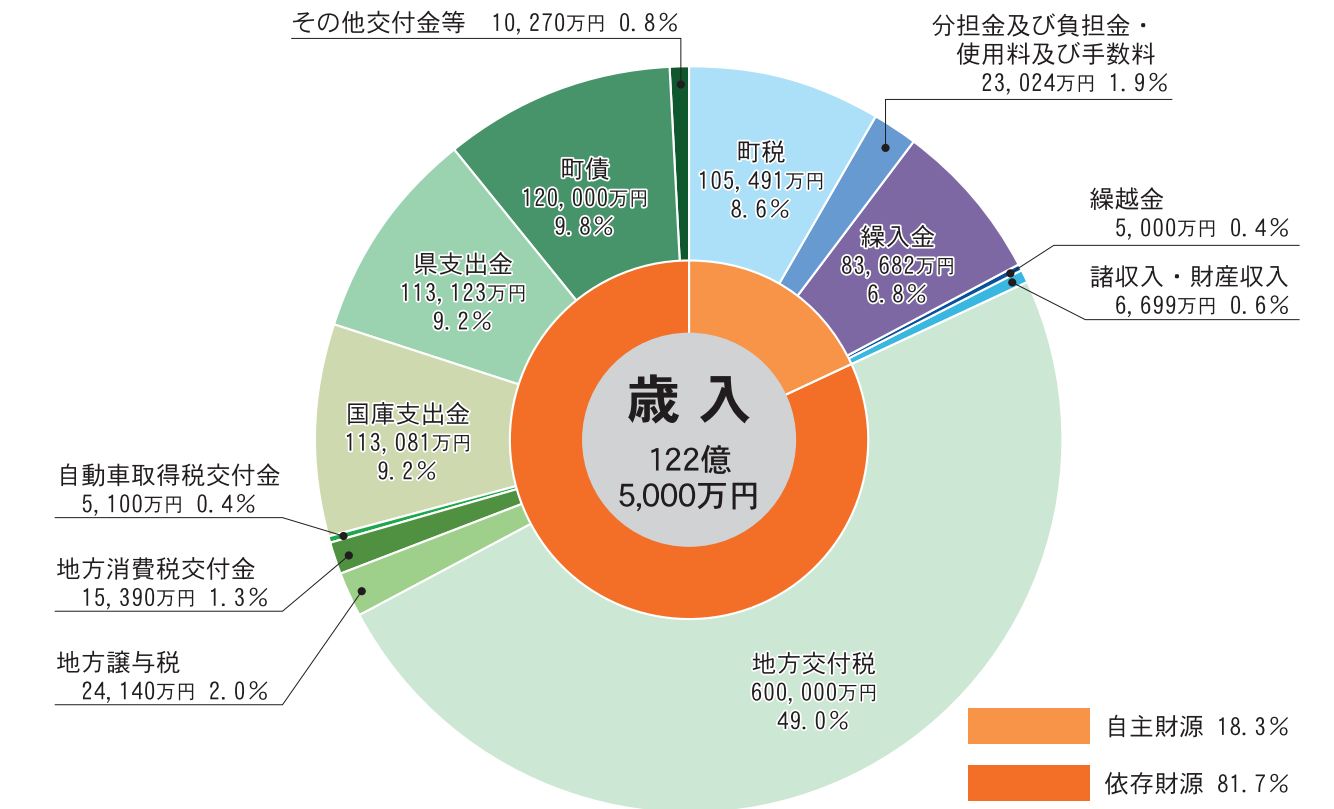
(予算額単位：千円)

・庁舎建設事業（23年度）	972,265
・中山間地域等直接支払制度交付金事業	367,669
・農地・水・環境保全向上対策事業	48,371
・中山間地域総合整備事業	70,531
・フォレストコミュニケーション総合整備事業（湯鶴線）	198,000
・大矢野原演習場周辺障害防止対策事業（用水路整備）	75,261
・地域活力基盤創造交付金事業（瀬戸福良線ほか）	387,651
・大矢野原演習場周辺民生安定事業（久留見尾線ほか）	117,266
・まちづくり交付金事業（新町横町線ほか）	187,626
・自然災害防止事業	20,000
・浄化槽設置事業補助金	55,827
・地籍調査測量設計委託事業	327,789
・健康診断、予防接種委託料	42,000
・子ども医療費助成	24,000
・一般共聴施設整備事業	111,500
・コミュニティバス運行事業	143,000
・街路灯整備事業	16,000
・奨学資金貸付事業	11,520
・文化的景観事業	68,928
・管内高校振興事業	9,600
・太陽光発電、太陽熱利用システム事業助成	4,000

平成22年度 特別会計

特別会計名	当初予算額
国民健康保険特別会計	28億2,400万円
老人保健特別会計	103万円
後期高齢者医療特別会計	2億3,987万円
介護保険特別会計	22億4,311万円
国民宿舎特別会計	7,247万円
住宅新築資金等貸付事業特別会計	609万円
簡易水道特別会計	4億3,100万円

一般会計歳入



一般会計 122億5,000万円 特別会計 58億1,757万円 山都町の予算

引き続き厳しい地方財政の状況の下、事務事業全般の見直しを行い、予算配分の重点化・効率化に配慮した編成を行いました。その結果、一般会計の予算は122億5千万円で、前年度6月補正後予算（当初予算は、町長選挙の関係から普通建設事業等の政策的な経費は計上しない「骨格予算」であったため、6月補正予算後の「肉付予算」と比較）より、7億5千万円の増となっております。

本町の歳入は、上のグラフでもわかるように、財源の8割以上が依存財源であり、なかでも地方交付税に大きく依存している状況です。しかし、三位一体の改革により地方交付税は大幅に減額されたままであり、加えて、自主財源も近年の景気動向や高齢化などを反映し、収入の伸びは期待できず、昨年にも増して厳しい予算編成となりました。さらに地方債残高も依然として高水準であるため、投資事業の抑制を通じてその圧縮を図っていく必要があります。

歳入は、円グラフの「性質別」と帯グラフの「目的別」で表しています。人件費をはじめ扶助費、公債費といった義務的経費の予算総額に占める割合が4割以上と非常に高く、今後ますます財政の硬直化が懸念されるところです。このため、各種施策の事業効果や優先順位など徹底した見直しを行うなどして、財政運営の健全性確保や弾力性の保持を図っていかねばなりません。

今後も、財政体質の健全化に努めつつ、本町の基本構想「潤い、文楽、そよ風でつづる山都町」に定める基本理念「5つのまちづくりの柱（風）」に沿って、着実に事業を推進していきます。